

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 2 月 20 日(2025.2.20)

【公開番号】特開 2024-11826(P2024-11826A)
【公開日】令和 6 年 1 月 25 日(2024.1.25)
【年通号数】公開公報(特許)2024-015
【出願番号】特願 2022-114092(P2022-114092)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 2 0

10

【手続補正書】
【提出日】令和 7 年 2 月 12 日(2025.2.12)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、

複数の発光手段と、

可動体と、

可動体制御手段と、を備え、

30

前記可動体制御手段は、電源投入がされた場合、前記可動体が正常に動作することを確認するための動作により該可動体を動作させる確認動作制御を行うことが可能であり、

前記演出実行手段は、特定の可変表示パターンに基づく可変表示中において、遊技者に動作を促す動作促進演出を行うことが可能であり、

前記特定の可変表示パターンは、

前記動作促進演出が実行されるまでの第 1 パートと、

前記第 1 パートの後に実行され、前記動作促進演出の結果が報知される第 2 パートと、を含んで構成され、

前記可動体制御手段は、

前記可動体を第 1 期間動作させる第 1 動作制御パターンと、前記可動体を前記第 1 期間よりも短い第 2 期間動作させる第 2 動作制御パターンと、で前記確認動作制御を行うことが可能であり、

40

前記特定の可変表示パターンに基づく可変表示が開始される前の可変表示の終了直前に電断が発生し、その後、電源投入がされた場合、前記特定の可変表示パターンに基づく可変表示の実行中において前記第 2 動作制御パターンで前記確認動作制御を行って前記第 2 パートが開始されるよりも前に前記確認動作制御が終了するように前記可動体の制御を行うことが可能であり、

前記演出実行手段は、

電源投入がされたときに初期化処理を伴う第 1 の場合と、電源投入がされたときに初期化処理を伴わない第 2 の場合とで、デモンストレーション表示を行うことが可能であり

50

電源投入がされたときに起動準備表示を表示可能であり、

前記有利状態に制御されているときに電断が発生し、その後電源投入がされた場合と、前記有利状態に制御されていないときに電断が発生し、その後電源投入がされた場合とで、共通の態様にて前記起動準備表示を表示可能であり、

前記可動体制御手段は、前記第1の場合と前記第2の場合の何れであっても、前記デモンストレーション表示が開始されるよりも前に前記確認動作制御が終了するように前記可動体の制御を行うことが可能であり、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、通常保留表示と、該通常保留表示よりも前記有利状態に制御される期待度が高い特殊保留表示とを含む複数種類の保留表示のうち1の保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の1つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて前記通常保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の1つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて前記特殊保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示する、

ことを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50

【 手 続 補 正 2 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

（ A ） 特 定 識 別 情 報 の 可 変 表 示 を 行 い 、 遊 技 者 に と っ て 有 利 な 有 利 状 態 に 制 御 可 能 な 遊 技 機 で あ っ て 、

遊 技 制 御 手 段 と 、

演 出 実 行 手 段 と 、

保 留 記 憶 手 段 と 、

複 数 の 発 光 手 段 と 、

可 動 体 と 、

可 動 体 制 御 手 段 と 、 を 備 え 、

前 記 可 動 体 制 御 手 段 は 、 電 源 投 入 が さ れ た 場 合 、 前 記 可 動 体 が 正 常 に 動 作 す る こ と を 確 認 す る た め の 動 作 に よ り 該 可 動 体 を 動 作 さ せ る 確 認 動 作 制 御 を 行 う こ と が 可 能 で あり 、

前 記 演 出 実 行 手 段 は 、 特 定 の 可 変 表 示 パ タ ー ン に 基 づ く 可 変 表 示 中 に お い て 、 遊 技 者 に 動 作 を 促 す 動 作 促 進 演 出 を 行 う こ と が 可 能 で あり 、

前 記 特 定 の 可 変 表 示 パ タ ー ン は 、

前 記 動 作 促 進 演 出 が 実 行 さ れ る ま で の 第 1 パ ー ト と 、

前 記 第 1 パ ー ト の 後 に 実 行 さ れ 、 前 記 動 作 促 進 演 出 の 結 果 が 報 知 さ れ る 第 2 パ ー ト と 、 を 含 ん で 構 成 さ れ 、

前 記 可 動 体 制 御 手 段 は 、

前 記 可 動 体 を 第 1 期 間 動 作 さ せ る 第 1 動 作 制 御 パ タ ー ン と 、 前 記 可 動 体 を 前 記 第 1 期 間 より も 短 い 第 2 期 間 動 作 さ せ る 第 2 動 作 制 御 パ タ ー ン と 、 で 前 記 確 認 動 作 制 御 を 行 う こ と が 可 能 で あり 、

前 記 特 定 の 可 変 表 示 パ タ ー ン に 基 づ く 可 変 表 示 が 開 始 さ れ る 前 の 可 変 表 示 の 終 了 直 前 に 電 断 が 発 生 し 、 そ の 後 、 電 源 投 入 が さ れ た 場 合 、 前 記 特 定 の 可 変 表 示 パ タ ー ン に 基 づ く 可 変 表 示 の 実 行 中 に お い て 前 記 第 2 動 作 制 御 パ タ ー ン で 前 記 確 認 動 作 制 御 を 行 っ て 前 記 第 2 パ ー ト が 開 始 さ れ る より も 前 に 前 記 確 認 動 作 制 御 が 終 了 す る よ う に 前 記 可 動 体 の 制 御 を 行 う こ と が 可 能 で あり 、

前 記 演 出 実 行 手 段 は 、

電 源 投 入 が さ れ た と き に 初 期 化 処 理 を 伴 う 第 1 の 場 合 と 、 電 源 投 入 が さ れ た と き に 初 期 化 処 理 を 伴 わ な い 第 2 の 場 合 と で 、 デ モ ン ス ト レ ー シ ョ ン 表 示 を 行 う こ と が 可 能 で あり

電 源 投 入 が さ れ た と き に 起 動 準 備 表 示 を 表 示 可 能 で あり 、

前 記 有 利 状 態 に 制 御 さ れ て い る と き に 電 断 が 発 生 し 、 そ の 後 電 源 投 入 が さ れ た 場 合 と 、 前 記 有 利 状 態 に 制 御 さ れ て い な い と き に 電 断 が 発 生 し 、 そ の 後 電 源 投 入 が さ れ た 場 合 と で 、 共 通 の 態 様 に て 前 記 起 動 準 備 表 示 を 表 示 可 能 で あり 、

前 記 可 動 体 制 御 手 段 は 、 前 記 第 1 の 場 合 と 前 記 第 2 の 場 合 の 何 れ で あ っ て も 、 前 記 デ モ ン ス ト レ ー シ ョ ン 表 示 が 開 始 さ れ る より も 前 に 前 記 確 認 動 作 制 御 が 終 了 す る よ う に 前 記 可 動 体 の 制 御 を 行 う こ と が 可 能 で あり 、

前 記 保 留 記 憶 手 段 は 、 所 定 数 を 上 限 と し て 可 変 表 示 に 関 す る 情 報 を 保 留 記 憶 と し て 記 憶 す る こ と が 可 能 で あり 、

前 記 遊 技 制 御 手 段 は 、 可 変 表 示 が 終 了 し た と き に 、 次 の 可 変 表 示 に 対 応 す る 保 留 記 憶 が あ る 場 合 に 次 の 可 変 表 示 を 実 行 可 能 で あり 、

前 記 演 出 実 行 手 段 は 、

保 留 記 憶 が 記 憶 さ れ た と き に 、 通 常 保 留 表 示 と 、 該 通 常 保 留 表 示 より も 前 記 有 利 状 態 に 制 御 さ れ る 期 待 度 が 高 い 特 殊 保 留 表 示 と を 含 む 複 数 種 類 の 保 留 表 示 の う ち 1 の 保 留 表 示 を 表 示 可 能 で あり 、

10

20

30

40

50

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の1つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて前記通常保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の1つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて前記特殊保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

10

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

20

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に变化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に变化させて該特殊保留表示を表示する、

30

ことを特徴とする。

40

50